

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット新1階)

事業所番号	2772001604		
法人名	株式会社 住装		
事業所名	グループホーム あびこ やすらぎの里		
所在地	大阪府大阪市住吉区我孫子2丁目1番18号		
自己評価作成日	平成31年11月20日	評価結果市町村受理日	平成32年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年1月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が日々の生活の中で、自主的に行動できるような雰囲気作りに取り組み、その人らしく過ごせるように心がけています。玄関・フロア内に(金魚・熱帯魚)を飼育し、施設の周辺には草花を植 え、日々の成長を楽しんでいただけるような環境作りに取り組んでいます。健康管理に対し看護師1名が勤務されていて(助言、相談、異常時の早期発見)等で安心して暮らせるようになり、家族様も安心されています。入居に関しては枠にとらわれることなく、低所得の方でもより良い環境で生活が出来る様に支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体の(株)住装は、阿倍野区内に当グループホームと高齢者住宅1つを運営している。当事業所は2004年に2ユニットで開設され、2007年に1ユニット増設し、1階に2ユニット、2階に1ユニットとデイサービスセンターがある。デイサービスセンターは週3日(月・木・日)休日で、当事業所は、利用者の入浴や各種会議などで活用している。毎月の職員全体会議に加え、今年度から各ユニット毎のミーティングも開いて、職員が知恵を出し合って協力して運営するよう努めている。「脳活劇場」と称して、体操・ランプ・マジック・外国語習得・お笑いビデオ鑑賞などを楽しんでいるユニットもある。利用者の言動を抑制も強要もせず、主体性を重んじて働きかけ、できる利用者は、居室の洗面台の掃除、食事時のテーブル拭き・洗い物・下膳を行っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「安心」「安全」「満足」を朝の申し送り時、唱和し意識づける様に取り組み入居者様の安心・安全と自己実現欲求へと繋げて行ける様に取り組み、ご家族・皆様がたの協力を得ながら、質の高いサービス目指していききたいと思います。	基本理念「(略)家庭的な雰囲気の中で、皆様の人格を尊重しその尊厳を守り、「安心」「安全」「満足」をモットーに、地域、ご家族の皆様方の協力を得ながら、質の高いサービスを目指します。」をパンフレットに掲載し、玄関や各ユニットに掲示して職員・家族に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の消防訓練参加。近所の園児との七夕会・敬老の日の訪問は定例となっておりますが、まだ地域の一員として日常的に交流にまで至っていません。	町会に加入し、地域の消防訓練に職員が参加している。事業所の七夕祭りや敬老の日には近隣の保育園児が訪れ、プレゼント交換や歌ったり遊んだりして交流している。歌・手品などのボランティアを受け入れている。事業所の見学者には、パンフレットで認知症ケアについて説明し、施設を見学してもらっている。	地域との交流は、一時に比べて停滞気味である。今後、町会や行政などから情報を収集し、地域行事への参加やボランティアの受け入れなどを積極的に行うことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献はこれからです。今後の課題として取り組んでまいります。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を年6回行われるように、日程を決めて進めていく予定でしたが前回と同じで達成できてなく後半へと繋げていきます。	地域包括支援センター職員、町会の会長・会計担当・婦人部長、利用者(1名)の参加を得て会議を開催しているが、参加者の都合もあって、4か月に1回の開催に止まっている。会議では、事業所の現況報告・活動内容・事故ヒヤリハット報告書を中心に行い、意見交換している。議事録は簡潔で、意見交換の内容も記載されておらず、家族には配付していない。	運営推進会議を2か月毎に定例化するなど工夫して、省令通り年6回開催することを望む。また、議事録には意見交換の内容なども記載して、より詳しく分かりやすく作成し、家族にも配付して、事業所運営への理解と会議への参加を促進することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の入居様が多く生活福祉センター生活支援課との関係が多くなってきています。連携を図りながら協力関係を築くよう取り組んでいます。今回「火災時要援護者支援」登録させて頂きました。	利用者の約2/3が生活保護受給者で、区の保健福祉センター生活支援課とは後見人の設定や各種申請などで常に連携しており、区のケースワーカーも年2回訪問している。また、保健福祉課とも介護保険関係や各種の報告・相談で連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の19:30～翌朝の6:30ごろまでは屋外からの侵入対策として、玄関・裏門などは施錠しています。身体拘束は身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、職員全体会議時に年2回研修を行って周知している。ユニット間は行き来自由で、1階玄関も日中は基本的には施錠せずに利用者を見守って、出かける人にはその都度職員が同行している。転倒防止のために利用者2名の居室にセンサーを設置して対応している。	現在、身体拘束は一切行っていないが、作年度の法改正で求められている身体拘束廃止に関する指針を作成し、また、3か月に1回、身体拘束適正委員会を開催するか、運営推進委員会で検討することを望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体状況の確認は日々の更衣・入浴時等で行っています。テーブルや椅子で少しこすれてもアザになったりするので、環境整備を整えたり工夫しています。言語による虐待等が無いように良き関係作りに取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートを利用されている方1名・後見人申込者1人入名いますので、制度の理解と活用について勉強会を開催し理解を深めたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な事や疑問に思っている事を尋ね入居後にトラブルが発生しない様に理解・納得がいくように十分な説明を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時時間を頂き利用者様や家族様の意見やアドバイスをいただける様にしていきます。意見箱を玄関に設置しました。	家族の訪問がない利用者もいるが、家族の訪問時には意見・要望を聞くよう心がけている。意見・要望は「施設介護経過」シートや申し送り票に記録し、職員間で共有して対応している。散歩などケアに関する意見・要望はあるが、運営に関することはほとんどない。以前送付していた家族への便りはここ1年途切れており、復活することを望む。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議(第4木曜日)に行い。意見や提案を聞けるように努めている。	毎月の全体会議には休みの職員も参加し、時間外手当を支給しており、今年度からユニットミーティングも行っている。職員の意見に沿って、利用者がゆっくり休めるよう、リビングにリクライニングシートを設置したなどの事例がある。必要に応じて随時職員面談しているが、定期的に全職員の面談を行って、意見・要望の把握に努めることが望まれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時期や就業期間、個々の能力を分析し必要であれば面談を行い適切なケアへの取り組みを行っていきける環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症初任者研修・ヘルパーの資格が無い職員の方はヘルパーの初任者研修に通い、資格取得できるように取り組んでいます。毎週月曜日に心配事や困った事が無いか個別面談にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はあるがネットワークづくりや勉強会まで至っていません。参加の機会を得サービスの質の向上を目指したいと思います。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際不安な事、要望等些細な事でも相談していただけるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内覧時に家族様が困っている事。不安な事要望を傾聴し、信頼関係が築けるように努めています。又施設で出来ることと、出来ない事も理解して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ対応していますが、入居様に今何が必要されているか家族・本人と相談し他のサービスへと結びつけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、できる事とできない事を見極め、残存能力を活かし出来る役割を担って行く事で、共同生活を共にするもの同士の助け合い等で、信頼関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの中で、入居者様と家族の絆を大切に共に支えていく関係が築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室・病院受診・墓参りなど職員又は家族様が同行し馴染みの場所に行かれています。	利用者や家族などから馴染みの関係を把握・記録し、職員間で共有している。利用者のかつての友人や近所の人が訪れ、馴染みの美容室・スーパー・飲食店・墓参りなどに出かける人もいる。他のフロアの利用者と仲良しになって一緒にカラオケやレクリエーションを楽しんだりする人もおり、関係が継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様同士が関わりを持ち関係性を築き、孤立せず生活が豊かになるように、職員共に支え合う関係作りに取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても関係を断ち切らず、気軽に相談や支援が出来る様に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの(思い・暮らし方・希望)など把握しケアの向上に努める。困難と思われる場合でも本人と相談・検討し可能な限り意向に沿えるように支援していきたいと思えます。	入居時の面談や、日常のケアで寄り添った時などに、利用者の意向を把握するよう努めている。意向を表出しにくい人は、表情や具体的にやりたいことを提案した時の反応などで把握している。希望に沿って、買い物に行ったり、壊れたメガネを作り直したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで大切にしていた馴染みの暮らし方を変えることなく、通院・墓参り・家族様との関わりが途切れ無いよう関係作りを努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方について、一人ひとりの記録に留めることにより、その人の現状状態の早期発見がわかり、申し送り時に情報の共有にて現状の把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の意見や利用者の思いも取り入れ、毎月モニタリングを行う事により、現状に即したケアが反映し思いが叶う様に計画作成に活かしています。	利用者基本情報・介護経過記録・業務日誌などを基に、本人・家族・職員・主治医・訪問看護師の意見も取り入れて介護計画を作成している。計画は長期目標6か月、短期目標3か月とし、毎月モニタリングし、各ユニットの全職員が数日に分けて参加するサービス担当者会議を開いて、6か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化など気づきを見逃すことなく記録に留めていくことにより、職員間で情報共有して、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ、眼科・歯科・鍼灸接骨院・神経内科等に柔軟な支援が出来るように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	救命蘇生法(AED)の講習など地域資源を活用したいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の提携医以外に入居者様が今までのかかりつけ医を希望される方は希望に添えるように柔軟に対応しています。	利用者・家族の意向に沿ってかかりつけ医を決めており、従来の医師を月1回受診している人もいる。他のほとんどの人が協力医の内科月2回、歯科週1回(希望者)の往診を受けている。その他の専門科(眼科・皮膚科・整形外科・神経内科・鍼灸接骨院他)は、原則家族が同行して受診し、利用者の個人ファイルを持参して情報提供し、結果をフィードバックしてもらって通院記録に記入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人ひとりの変化を訪問看護師に伝え記録に落とし込んでいます。訪問看護師⇄職員へと共有できるようにファイルを作成しています。施設にも看護師が常駐しており安心して暮らせる環境を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院については入居者、家族さま主治医と連携を図り方針を共有しつつ入退院に向けての支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し医療的処置が必要になった時、家族・医療機関・地域医療連携との連携を図り、方針を共有しつつ退院に向けチームでケアが出来る様に取り組んでいます。また主治医が「終末期」と判断された時は、入院継続となる。	「重度化した場合の対応に関する指針」は作成されておらず、契約時に重要事項説明書の中で、重篤な急変時は医療機関に送ることを説明し、利用者・家族の同意を得ている。24時間オンコールの医療連携体制は取っているが、事業所としては看取りはしない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時用のファイルを作成し戸惑いが無いようにしています。訪問訪問往診・主治医と連絡を取り、指示を仰ぎ急変時や事故に備え対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っています。各フロアにて月に一回位職員と共に自主避難訓練を予定しています。	消防署立ち合いと自主で、昼間想定消防訓練を年2回行っている。地域との連携体制は構築されていないが、15人程の職員が近くに住んでおり、有事にはすぐに駆け付けることができる。備蓄品リストがなく、内容・量とも不十分である。	夜間想定避難訓練の実施、地震・水害・津波対策の充実、地域との連携体制の構築と訓練への参加要請、備蓄品リストの作成と最低3日間分の備蓄(水・食料・備品類など)など、災害対策の課題は多い。利用者の安全と生命に関わることであり、早急かつ確実に課題解決することを望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報法に基づいたプライバシーの保護に取り組んでいます。不適切な対応があった時は管理者に報告するようにしています。	接遇研修で職員の意識を高め、日々の利用者への声かけでも丁寧な言葉遣いに留意し、利用者の話にはきちんと耳を傾けて聞き出す工夫が見られる。日々の介護時には、常識的に判断して小さなことでも職員同士で注意し合える環境がある。個人情報のファイルは鍵付きの書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が日常の暮らしの中で、相談したり、希望や助言が出来あう、関係作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されがちであるが、入居者様のことを念頭入れ行動に写し個々に合わせた散歩、お喋りやカラオケ等で過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には衣服を着替えたりお化粧され、日々の身だしなみを整えています。3ヶ月に1回の訪問理美容で好みのカットをいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からのメニューですが、カレーが嫌いだったりすると肉じゃが等に変更したり別メニューにて提供しています。季節の行事の時は、季節に合わせた食事を提供しています。出来るからは食器の片づけをしています。	食材は献立付きで業者から配達され、各ユニットで調理担当職員が交代で手作りしている。朝食はパンかご飯を選択できるようにしている。時には食材配達をストップして、季節の野菜や魚を買い出し、中庭で収穫した食材も使って提供している。おやつを手作りして楽しむこともある。元気な利用者がテーブル拭き・洗い物・下膳などを行っている。職員も同じ物を摂りながら、和やかに食事している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューで、栄養のバランスは確保できていると思われる。(咀嚼の悪い方・飲み込みの悪い方)など個人に合わせ、トロミの調整等行い食事提供をしています。水分摂取量は1500mlを目標としています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底により、誤嚥性予防に繋げている。また自身で出来る方に対して声掛け見守りをしています。週に一度の訪問歯科を利用する事により(口腔ケア・観察)清潔保持が出来る様に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が続くことがあっても、排泄のパターンや習慣を把握し又自尊心が傷つけない様に一時的に「リハビリパンツ、パット」使用しても、医師や本人とも良く話し合いパンツに変更できるように支援しています。	終日おむつ使用者が1名、排泄自立の人が4～5名いるが、ほとんどの利用者がリハビリパンツにパッドで日中を過ごしている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して適切に対応することで、入居時にリハビリパンツだった人が布パンツに改善しれた例がある。夜間は3時間毎に見廻っているが、睡眠を重視して個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量や食事量を常にチェック表に記載し、適度な運動や都度飲み物えを替え、脱水や便秘にならない様に工夫しています。頑固な便秘の方は医師との連携を図り便秘薬の調整をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ですが、体調不良の時は清拭や足浴・手浴を行ったり、入浴拒否傾向の強い方は、疾病を視野に入れ拒否の根拠を分析し、本人にとって一番良い方法で気分よく入浴できるように努めている。	事業所2階のデイサービスセンターが休みで風呂が空いている時も利用し、週2回の入浴を行っている。入浴拒否が強い利用者には、足浴などで対応している。ほとんどの利用者が同姓介助で入浴しており、2人介助を行っている人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、体調に応じた安眠や休息がとれるように支援しています。手足が冷えて眠りに付けられない方などは、レンジで温める湯たんぽを使用し、気持ち良く眠りに付ける様に支援しています。日中に身体を動かすよう心地良い眠りに付ける様に心がけています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明表ファイルにまとめ、何時でも閲覧できるようにしています。臨時薬や定期薬変更時は申し送りに記載し、説明書にはマーカで印をつけています。体調不良時は主治医に報告・相談のもと薬処方されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり活気はあり、笑顔が見られるが、職員が常にキャッチし、その人に応じた声掛けをしています。洗面台等掃除お手伝いして頂いたり、週に2回のカラオケ参加し満足感を感じていただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の様に外出の機会を得ることが出来ていましたが、7月・8月・9月と猛暑・台風・秋雨で外に出かけることが少なくなり、希望に添うことが出来なかった。季節が良くなり再度取り組んでいます。	日常的な外出は猛暑の夏季以降休止していたが、最近は天気を見て、重度の人も含めて週1～2回程度は近隣を散歩し、時には食材の買い物にも出かけている。2階のベランダでおやつを食べたり、1階の前庭に水やりしたりして外気に触れている。家族と病院受診時に外食したりする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様・本人からの預り金や立替金を使用され、散歩を兼ね職員と共に外出好みの物を購入したり、面会時家族様と買い物に行かれたりもされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアに電話があり希望時、電話を掛けることが出来る様に支援しています。携帯電話を持っている方は、自ら電話を使用しています。家族。友人への年賀状送付も検討中		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清潔保持を心がけています。窓から外の景色を眺めた時、季節感を感じたり、熱帯魚の成長も観察できるように工夫をしています。	共用空間のリビングは、職員が週に2回ステーム付きの掃除機でフローリング床の掃除を行い、清潔に保たれている。壁には利用者が職員と共に制作した切り絵・カレンダーが飾られ、季節を感じられる。水槽で金魚・熱帯魚が飼育され、利用者の心を癒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースなのでトラブル事もありますが、都度工夫し気の合った入居者様同士、思い思いに過ごせるように、居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、部屋に似合った好みの物を活かし、本人が配置を考え心地よく過ごせるように工夫している。仏壇等も持って来られ、安心して生活が送れるように努めています。	居室にはエアコン・洗面台・ベッド・防災カーテンが備えられている。各ユニットに3室ある和室には押し入れもあり、クッション付きカーペットの床にこたつを置いたり、冷蔵庫や籐製の衣装入れなどを持ち込んで、寛げる空間を演出している利用者もいる。近くの保育園との交流で、敬老の日に園児が書いたメッセージが表札の上に貼ってあるのが微笑ましい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りを優先し出来るだけ本人思いの環境を整え、必要な福祉用具を使用しつつ、自立した生活が送れるように空間を工夫しています。		